

※達成度…A: 目標を達成 B: 目標値の7割以上達成  
C: 目標値の5割以上達成 D: 目標値の達成は5割未満

## 「基本的方向性」の指標

No	① 基本目標	② 重要業績評価指標(KPI)						③ R2年度末に おける実績値	④ R3年度末に おける実績値	⑤ 評価年度に おける達成度 (※)	⑥ 備考	担当課	
		数値目標	基準値	基準 年度	目標値	単位	目標年						
I	魅力ある雇用をつくる	①	製造品出荷額(年間)	3,152	H29	3,100	億円	R6	3,376	3,376	A	R3年度数値の公表時期はR4年12月の予定	商工課
		②	従業者数(6月1日現在)	7,830	H30	7,800	人	R6	7,842	7,842	A	R3年度数値の公表時期はR4年12月の予定	商工課
II	若い世代の活躍を支える	①	年間出生数 ※出生数は年単位	435	H30	435	人	R6	389	360	B		こども支援課
		②	18~39歳人口(10月1日現在)	13,797	R1	13,383	人	R6	13,579	12,938	B		企画政策課
III	人と地域のつながりをつくる	①	現住人口(10月1日現在)	59,739	R1	57,836	人	R6	59,274	58,318	A		企画政策課

KPIの達成状況等(R3年度分まで)	今後の方向性
<p>「製造品出荷額」及び「従業者数」については、目標値を上回っており、順調に推移しているといえる(最新の数値でないため暫定評価)。</p> <p>「年間出生数」及び「18~39歳人口」については、全国的な人口減少を背景に本市でも減少しており、特に出生数に関しては、コロナ禍の影響を大きく受けたと考えられる。令和3年度時点ではB評価に止まっているが、今後も減少が続くようであればKPIの達成は難しい状況にある。</p> <p>現住人口も同様に減少しており、設定したKPIは現時点では達成しているものの、今後、この水準を維持していくことには高いハードルがある。</p>	<p>「産業サポート白河」を核とした中小企業の支援や、大企業の工場誘致などを積極的に推進し、今後も目標達成の継続を図っていく。</p> <p>出生数・人口の減少対策として、子育て支援や結婚支援を重点的に推進していくとともに、コロナ禍において地方への関心が高まっていることから、移住定住の推進やテレワーク環境の整備、空き家対策等の居住環境の充実により、本市への移住者を増やす取組みを促進していく。</p>



検証委員意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安の影響で、製造業の国内回帰が進んでおり、特に半導体関連に力が入っているようなので、こうした点も視野に入れ企業誘致に取り組んでほしい。</li> <li>・ジェンダーギャップを解消するなど、女性の暮らしやすさを追求し、少子化対策や子育て支援につなげていくことが肝要。</li> <li>・首都圏在住のキャリアチェンジを望む女性をターゲットにした、職業支援と移住支援をセットにした取組みも考えられるのではないか。</li> </ul>

※達成度…A:目標を達成 B:目標値の7割以上達成 C:目標値の5割以上達成 D:目標値の達成は5割未満

## I. 魅力ある雇用をつくる

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度末 実績値	⑥ R3年度末 実績値	⑦ 達成度	担当課	評価
				KPI	基準値	基準年度	目標値	単位	目標年					
(1)	地域企業への支援強化と企業誘致の推進	① 支援機関と連携した地域内中小企業の支援強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業サポート白河との連携によるきめ細やかな経営相談</li> <li>中小企業の基盤強化のための資金的支援(信用保証料の補助や利子補給等)</li> <li>新規事業開拓や販路拡大のための見本市等への出展支援</li> <li>就労環境の向上に関するセミナー等の開催(事業No.1,2)</li> </ul>	① 産業サポート白河による取引あっせん相談件数(累計)	56	H30	206	件	R6	160	224	A	商工課	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業サポート白河が県南地域の企業訪問や企業と関係機関とのネットワークの形成支援等を行い、企業の課題解決や製品開発から販売までのトータルサポートを実施したため、中小企業の経営強化を図ることができた。</li> <li>KPIは順調に推移していると考えられるため、今後も継続して企業支援を実施していく。</li> </ul>
		② 新規企業の誘致の推進及び既存企業の規模拡大に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規企業等への立地意向調査の実施</li> <li>既存企業の増設計画支援</li> <li>市内工業団地等への企業誘致</li> <li>企業立地促進のための奨励金制度による支援(事業No.1,3,4)</li> </ul>	② 新規企業の誘致による新規雇用者数及び既存企業の増設による雇用者数(累計)	159	H30	309	人	R6	166	196	C		<ul style="list-style-type: none"> <li>企業訪問等を実施(交通の便が良いことなどのPRなど)したことにより、新規企業の誘致や既存企業の増設につなげることができ、新規雇用者数を増やすことができた。</li> <li>KPIは順調に推移していると考えられるため、今後も継続して企業訪問、誘致活動を実施していく。</li> </ul>
		③ 人材育成のための各種講習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり技術講習会の開催</li> <li>若手経営者育成事業の開催</li> <li>AI・IoT人材育成事業の開催</li> <li>大学等と連携した人材育成</li> <li>事業承継に関するセミナー等の実施支援(事業No.1,5,6,7,8)</li> </ul>	③ スキルアップ講習会等の参加者数(年間)	198	H30	218	人	R6	142	151	C		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響もあり当初の目標通り参加人数を確保していくことは難しい環境下であった。オンライン等、開催方法を工夫し、参加人数を確保していきたい。</li> </ul>
(2)	若者の地元定着の推進	① 小中高生を対象としたキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業体験や職場体験の実施</li> <li>キャリア・パスポートの活用(事業No.7)</li> </ul>	① キャリア・パスポートの作成及び活用率	0.0	新設	100	%	R6	100.0	100	A	学校教育課 商工課	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校においては、職業体験だけでなく、企業の方を招聘して講話を聞くなど工夫して実施した。</li> <li>全ての小中学校でキャリア・パスポートが作成され、学びの記録の蓄積が図られている。小学校から中学校に引き継ぐための共通理解を図っている。</li> </ul>
		② 地元の企業情報等を発信する仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業サポート白河のホームページの充実</li> <li>SNS等を活用した情報発信</li> <li>白河企業データベースを活用した情報発信</li> <li>地域版就職情報冊子等の作成・配布(事業No.6,7)</li> </ul>	② しらかわ企業データベースの閲覧数(年間)	165,798	H30	181,500	件	R6	512,671	427,948	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>しらかわの企業データベースを充実させたことから閲覧数が増加し、地元企業を知ってもらう良いきっかけとなった。今後も新規企業のデータベースを充実させていく。</li> <li>KPIは目標に対し、大幅に達成しているため、目標値の修正を検討する。</li> </ul>	
		③ 地元企業インターンシップ事業等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職セミナーやインターンシップの情報発信</li> <li>インターンシップ実施の推進</li> <li>就職を希望する高校生等を対象とした地元企業の展示交流会の開催(事業No.7)</li> </ul>	③ インターンシップ等実施企業数(年間)	47	H30	53	社	R6	75	73	A	商工課	<ul style="list-style-type: none"> <li>UIJターン促進のため、インターンシップ受け入れ企業の拡大や学生と企業の交流促進に努めたことから、インターンシップ受け入れ企業数は増加し、KPIの増加にも大きく寄与したと考えられる。</li> <li>KPIは順調に推移していると考えられるため、今後も学生と企業の交流促進に努める。</li> </ul>
		④ UIJターン希望者への就職活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等を活用したUIJターン希望者への情報発信</li> <li>UIJターン希望者への交通費の補助(事業No.6)</li> </ul>	④ 白河UターンLINEアカウントの登録者(累計)	180	R1	1,080	人	R6	322	442	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業の採用情報や交通費補助の周知を行った。また、市内企業の採用情報誌を作成・配布するとともに、LINEによる情報発信を行い、市内企業の魅力発信に努めた。</li> <li>KPIが大幅に増加することはなかったため、制度が浸透されるよう継続して広報等を実施する必要がある。</li> </ul>	
(3)	白河の強みを発揮した新たな産業の創出	① 企業のグループ化や新商品等の開発、新分野への参入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業間を連携するための支援</li> <li>産学官連携によるネットワークの形成</li> <li>事業継承を機会に第二創業するために必要となる経費の一部を支援(事業No.1)</li> </ul>	① 企業間・異業種間連携による新商品等開発件数(累計)	0	H30	5	件	R6	1	1	D	商工課	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業サポート白河が全国ビジネスマッチングサイト「リンカーズ」などを活用し、地域企業間などで、積極的な取引が行われるよう仲介を行った。取引あっせんに関する相談件数は64件(昨年40件)と増加し、マッチングの成功例はあるものの、本年度はKPIに該当する実績はなかった。引き続き、企業間のマッチングを推進していく。</li> </ul>
		② 知的財産の活用支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産の必要性や活用法に関するセミナー等の実施</li> <li>知的財産に関する支援機関と連携した企業への支援(事業No.1)</li> </ul>	② 知的財産・特許権等取得の支援件数(累計)	0	H30	2	件	R6	0	0	D		<ul style="list-style-type: none"> <li>県、産業サポート白河と連携しながら知的財産の活用を促進するため企業訪問を行ったが、知的財産の取得までは繋がらなかった。</li> <li>令和3年3月に日本弁理士会と連携協定を締結したことから、今後セミナーや専門家による伴走型支援を行い、地元企業の知的財産活用の意識醸成を図っていく。</li> </ul>
		③ 新規創業・起業に対する切れ目のない支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業・起業に関する必要な知見を身に付ける講座等の開催</li> <li>創業・起業に対する各種融資制度における信用保証料等の支援</li> <li>創業・起業に対する場所の提供及び伴走型支援</li> <li>テレワーク等の導入推進支援(事業No.2,3,9)</li> </ul>	③ 各種創業支援事業による創業件数(累計)	8	H30	18	件	R6	33	46	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>市内での創業を促進するため、コワーキングスペースを提供するとともに、伴走型で支援する環境を整えた。それにより市内での創業の機運が醸成され、KPIの増加に寄与したと考えられる。</li> <li>今後も引き続き各種創業支援事業を行い、次年度以降の創業者の増加に繋げていきたい。</li> </ul>

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度末 実績値	⑥ R3年度末 実績値	⑦ 達成度	担当課	評価
				KPI	基準値	基準年度	目標値	単位	目標年					
(4)	農業の魅力向上による雇用の場の創出	① 基幹的農業従事者・集落営農組織の法人化への支援や農業法人誘致の推進	・規模拡大を図る事業者等に対する営農継続のための支援 ・農業法人参入のための総合的な支援 (事業No.10,11,12)	① 農業法人数(累計)	21	H30	24	法人	R6	21	19	B	農政課 農林整備課	・高齢化や後継者不足などの問題を整理し、将来の担い手への農地の集積・集約化や規模拡大を進めるため、地域農業の「未来の設計図」となる人・農地プランの作成を支援し、令和3年度は、11地区でプラン策定が完了した。また、農地中間管理機構(農地バンク)を通して農地の賃貸借を行った地域や農業者へ対し各種協力金を交付するなど、営農継続のための支援を行った。 ・農業法人参入に向けては、市内の主な事業者等は概ね法人化が済んでいる状況。ただし、設立後に組織形態や事業、構成員といった農地所有適格法人の要件を継続できずに解散に至るなど、法人数は減少傾向にある。 ・令和3年度は、県外の誘致法人である(株)サラダボウルの施設建設に向けて、農林整備課が実施主体となり農地造成などの支援を行った。また、農政課では、同法人が計画する高度化施設に係る視察及び協議を実施し、国庫補助事業の採択に繋げることができた。 ・KPIを達成するためには、最先端技術や経営ノウハウを有し、若者や女性など、新規就農の受け皿となる農業法人等の誘致が不可欠であるため、今後も法人参入に向けて総合的な支援に取り組むこととする。
		② 若者や女性、UJターン希望者の就農支援	・首都圏等における農業の魅力発信や農業体験事業の開催 ・新規就農者への相談体制の充実 ・新規就農者の経営安定及び施設・機械等への資金的補助 (事業No.13,14,15,16)	② 新規就農者数(累計)	3	H30	21	人	R6	8	14	C	商工課 農政課	・首都圏や宮城県、福島県内の就農フェアにオンラインを含めて出展したほか、市内の協力農家からの話を聞きながら農作業を体験する事業を実施し、本市における就農を検討する機会を提供した。 ・人・農地相談センターと連携して就農相談に応じるとともに、新規就農者向けの補助金を交付し、経営が軌道に乗るよう支援した。 ・KPIは目標に届いていないものの、これまでの取組みにより、毎年新規就農者が増えており、今後も継続して取り組むこととする。
		③ 農畜産物の6次産業化の取組への支援	・6次産業に係る研修会等の開催 ・新商品の事業化及び販路拡大に係る支援 ・生活・交流拠点施設等における6次化商品の販路確保 (事業No.17)	③ 支援制度を活用した6次産業化商品数(累計)	3	H30	21	件	R6	11	16	B	農政課	・県南地方市町村地域産業6次化推進協議会の事業として、農業6次産業化をテーマにしたセミナーを企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。 ・補助金により新商品の開発やパッケージ開発等を支援し、5品目が新たに開発された。 ・令和3年度から開始した地域ブランド事業「農産物ブランド白河しろもの」について、新たに24品目を認証し、PRに向けて事業展開しており、引き続き取り組むこととしている。 ・KPIは概ね順調に推移しており、今後も市内産農畜産物のブランド化や販路拡大に向けた取組みを支援していく。

KPIの達成状況等(R3年度分まで)	今後の方向性
<p><b>(1) 地域企業への支援強化と企業誘致の推進</b> 各項目ともKPIの達成状況は順調に推移しているといえる。特に産業サポート白河の中小企業相談支援が充実していたといえる。講習会等は、コロナの影響で、参加者の確保が難しい状況であった。</p> <p><b>(2) 若者の地元定着の推進</b> すでにKPIの目標を達成している項目もあり、順調に推移している。LINEによる情報発信については、さらなる利用者の登録を目指していく。</p> <p><b>(3) 白河の強みを発揮した新たな産業の創出</b> ビジネスマッチングや企業訪問等、積極的な取組みをしたが、目標達成には至っていない。</p> <p><b>(4) 農業の魅力向上による雇用の場の創出</b> KPIは順調に推移しているといえる。新規就農者への相談体制や各種支援の充実により、目標達成を見込んでいる。また、6次産業については市の農産物ブランド認証制度「白河しろもの」を開始し、積極的なPRを展開している。</p>	<p>全体的にKPIの達成状況は順調に推移しているといえる一方、コロナ禍の影響等で、KPIの達成状況が芳しくないものについては、今後の取組みを積極推進し、目標達成を図ってきたいと考える。</p> <p>また、整備したサテライトオフィスやワークスペースの積極活用を推進し、企業誘致や創業支援を強化していく必要がある。</p> <p>農業においては、コロナ禍における働き方への意識の変化等もあり、就農希望者が増加傾向にあるため、この契機を逃さず、新規就農者の増加につなげていきたいと考える。</p>



検証委員意見
<p>・若者が求める職業が地元にあるかないかで地元定着率に大きく影響してくるため、大企業の製造業のほか、広告業をはじめとするサービス業など、若者が求める業種の企業を誘致することが若者の定住につながるのではないか。</p> <p>・市内に新たに進出した企業の支援だけでなく、既存の地元企業に対する人材確保等の支援も必要。</p> <p>・産業サポート白河を核とした中小企業支援は、ほかの地域にはないユニークな取組みであるので、今後も継続して取り組んでほしい。</p> <p>・知的財産の取得を目指すほか、大企業が持っている知的財産を「活用」していくことが、新たなビジネスチャンスにつながる可能性があるため検討してほしい。</p> <p>・女性が街なかで起業することに魅力を感じられるようなまちづくりが必要。</p> <p>・廃校を活用し、ベンチャーの支援施設やオフィスにしている事例があるため参考としてほしい。</p>

## II. 若い世代の活躍を支える

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度実績値	⑥ R3年度実績値	⑦ 達成度	担当課	評価	
				KPI		基準値	基準年度	目標値	単位						目標年
(1)	ニーズを捉えた婚活支援	① 出逢いふれあい事業の充実・発展	・出逢いの場の提供 ・結婚意識形成セミナー等の開催	① 出逢いの場創出事業の参加者数(年間)	242	H30	270	人	R6	0	38	D	生活防災課	令和3年度はコロナウイルス感染症対策として、オンライン形式にてセミナーを1回、イベントを計4回開催した。イベントでは、画面の都合上、1回の参加者人数を絞らざるを得ず、リアルイベントを前提とした基準値に満たない実績値となった。令和4年度はオンラインイベントを4回、リアルイベントを1回実施する予定である。	
		② 婚活支援体制の充実	・結婚に対する相談を受けられる人材の育成	② 婚活支援者数(累計)	9	R1	14	人	R6	9	9	C		令和3年度は世話やき人希望者、独身者の親及び独身者を対象に、対面でのセミナー・登録会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。令和4年度には、対象者を世話やき人希望者と独身者の親に絞って説明・登録会を1回、登録した世話やき人を対象に研修会を2回実施する予定である。	
(2)	出産・子育てしやすい環境の整備	① 出産・子育てに関する相談体制の強化	・白河っ子応援センターの相談体制の充実 ・訪問型の子育て支援の実施 ・宿泊や日帰りによる産後ケアの実施(事業No.18,19,20)	① 白河っ子応援センターの利用者数(年間)	1,254	H30	1,200	人	R6	1,197	1,553	A	こども支援課	(白河っ子応援センター) 母子手帳の交付数は減少しているが、ハイリスク妊婦や特定妊婦の増加に伴い電話相談や随時相談・支援が増加してきている。また、発達の気になる子どもやDV・虐待などのケースも増加しているため、今後も関係機関との連携や情報共有会議等で切れ目のない支援を継続する。 (訪問型の子育て支援) ボランティアが定期的に家庭を訪問して妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を行っている。知り合いのいない地域での出産、子育ての不安を聴き(傾聴)、一緒に出産の準備を行う、子どもと関わる、家事を行うこと(協働)で孤立感を解消し、親自身の子育て力をアップさせている。 (産後ケア) 産後1年以内の母子を対象に、母子の体調管理や育児相談・指導を目的に、産後ケアを実施。産婦の育児負担の軽減や育児技術の向上、心身の疲労回復を行い、産後うつ予防・改善を図った。	
				② 子育てに関する講座への参加者数	235	H30	230	人	R6	163	322	A		(わくわく子育て教室) 現在、動画配信にて実施している。前編・後編合わせて295回の視聴があった。動画配信にすることで多くの親子が余裕のある時間にいつでも何度でも視聴することができるため有効であった。 (乳幼児健康診査の実施) 4か月児健診14回、1歳児健康診査12回、1歳6か月児健康診査14回、2歳児歯科健診12回、3歳児健康診査16回実施した。各健診の待ち時間にスキルアップ講座を実施し、生活リズムや愛着形成、親子遊びの重要性について普及した。	
		② 出産・子育てに関する正しい知識等の普及啓発	・子育てに関する講座等の開催 ・子育て支援ガイドブックの作成 ・子育て支援アプリによる迅速な情報発信 ・乳幼児の発達の節目における健診の実施(事業No.21,22,23)	② 子育て支援アプリ登録者数(累計)	1,419	H30	3,220	人	R6	2,013	2,301	B	こども支援課	(子育て支援アプリ) ・市の子育て支援の取組や子育てサロン、遊び場等の情報を迅速に分かりやすく提供するため、スマートフォン向けの子育て支援アプリを活用し情報発信を行った。 (子育て支援ガイドブック) ・妊婦や転入者向けには、市の子育てに関する様々な情報を掲載した子育てガイドブックを作成・配布した。子育て支援アプリの登録者は、増加傾向にあり、とても参考になった等の意見が寄せられていることから、引き続き迅速な情報発信に努めるとともに、登録者数の増加を図るための周知を行って行く。	
				③ 地域子育て支援拠点の利用者数(年間)	14,803	H30	14,736	人	R6	12,138	13,433	B		こども支援課	(ファミリーサポート事業) 近年、子育て支援は地域における支えあいによる共助の体制づくりが求められている。依頼会員の増加に反し、援助する協力会員の減少という現状があり、依頼を受けられなくなる恐れがある。協力会員の増加を図るため、様々な機会を活用し事業を周知していく。 (地域子育て支援拠点事業) 主に0歳～3歳の乳幼児を持つ親と子が気軽に集い、語り合い、交流を図る場を開設し、子育てについての相談や子育て情報の提供を行うことで、子育て支援機能の充実を図った(NPO法人へ委託)。その結果、育児不安の解消や母親同士の交流や仲間づくりにつながっている。 令和3年度は、コロナの影響により、予約制にしたり、感染予防対策を小まめに行ったりすることで、参加者は順調に推移している。今後も感染予防対策を継続するとともに、安心して参加できるよう工夫し、事業の継続や周知を図っていく。 (男性の育児参加を促す「父子手帳」配布) 母子手帳交付時に父子手帳の配布を実施し、父親への育児情報の提供と、夫婦での育児参加への意識の醸成を図った。夫婦で協力しながら子育てをしようとの意識を高めるため、今後も父子手帳の活用を促していきたい。 (子育て世帯への経済的支援) ・子育て世帯の経済的負担を軽減することで安心して子育てができる環境を整えるため、紙おむつ等が購入できる年間3万円のクーポン券を、0歳児及び1歳児の保護者に交付した。今後は、交付対象を拡充するなど子育て支援の更なる充実を図っていく。
		③ 地域社会全体での子育て支援環境の充実	・ファミリーサポート事業の実施 ・地域子育て支援拠点事業の実施 ・男性の育児参加を促すセミナー等の開催 ・子育て世帯の負担に対する経済的支援 ・男女共同参画セミナーの開催 ・企業へのワーク・ライフ・バランス推進に対する支援(事業No.21,24,25,26)	男女共同参画講演会等の参加者数(年間)	42	R1	130	人	R6	25	0	D	生涯学習スポーツ課		コロナの影響により実施できなかった。今後は男性の家事参画を促す講演会・セミナー等を開催していく。
		③ ワーク・ライフ・バランスを推進する企業数(累計)	1	H30	6	社	R6	8	25	A	商工課	家庭と仕事を両立しやすい就業形態等への改善を進めるため、福島県次世代育成支援企業認証制度について、広報誌やHPを使い、広くPRを行った。市内企業からの積極的な申請もあり認証企業は増加した。今後も継続して広く広報を行い、認証企業の増加に努めていく。			
II	④ 保育サービス等の充実による子育て世帯の就労支援	・幼稚園や保育園等の新設・増設等 ・保育士等の確保 ・児童クラブ等の受け入れ拡大 ・病児保育の実施(事業No.27,28,29)	④ 保育園待機児童数(年度当初)	16	H31	0	人	R6	0	0	A	こども育成課	・ひがし保育園の解体工事が完了し、幼稚園との連携が安全に行えるようになった。 ・私立保育園向けには、有料職業紹介所等からの紹介により保育士を確保した際に支払う紹介料の一部を補助する、白河市保育士確保対策事業補助金を交付している。 ・民間児童クラブの設置を支援し、毎年新規開設が実現しているが、児童クラブの待機児童の解消には至っていない。 ・令和元年度から病児保育室を運営している。今後も病児保育室を知ってもらうための広報活動を重視していく。		

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度 実績値	⑥ R3年度 実績値	⑦ 達成度	担当課	評価
				KPI	基準値	基準年度	目標値	単位	目標年					
③ 社会を生き抜く力を育む教育の充実	① 図書館の有効活用による読書活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館の図書の充実</li> <li>・市立図書館と連携した学校図書館の充実</li> <li>・学校図書館における司書の配置(事業No.30,31)</li> </ul>	① 学校図書貸出冊数(小学校)	119,782	H30	120,000	冊	R6	166,461	151,208	A	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての小中学校に学校司書が配置された、学校図書館の蔵書整備が進んでいる。</li> <li>・学校司書と学級担任が連携し、授業での活用が図られている。さらに、児童・生徒が読書の楽しさを実感できるよう、学校司書と学校図書館担当教諭、学級担任などの連携を推進していく。</li> <li>・市立図書館からの図書貸し出しや移動図書館など、市立図書館との連携も図られ、読書環境の整備も進められている。</li> </ul>
				② 学校図書貸出冊数(中学校)	3,671	H30	15,000	冊	R6	12,578	12,869	B		
	② 確かな学力の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた学習指導の実施</li> <li>・外国人英語指導助手による国際理解教育の実施</li> <li>・ICT教育環境の整備</li> <li>・ICT専門支援員による情報化社会対応のための教育の実施</li> <li>・土曜学習の実施</li> <li>・特別支援教育支援員による学習指導の実施(事業No.32,33,34)</li> </ul>	② 全国学力・学習調査の正答率(全国平均を上回った教科)(小学校):国語、算数、理科 ※理科は3年ごとの実施	1	R1	全	教科	R6	コロナ禍のため実施なし	全国平均比 国語-0.7 算数-3.2	D	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの導入などICT教育環境の整備により、個に応じた学習や新型コロナウイルス感染症に関わる出席停止の子ども達への対応など学習環境の整備が進んでいる。</li> <li>・外国人英語指導助手の配置により、外国語や英語の授業の質の向上や国際理解にも効果がみられた。</li> <li>・各会場約7回の土曜学習会を実施し、個別の学びを支援することができた。</li> <li>・43名の特別支援教育支援員を配置し、支援を必要とする児童生徒の譲渡面での安定や学習支援に成果があった。</li> </ul>
				③ 全国学力・学習調査の正答率(全国平均を上回った教科)(中学校):国語、数学、理科、英語 ※理科、英語は3年ごとの実施	1	R1	全	教科	R6	コロナ禍のため実施なし	全国平均比 国語+1.4 算数-2.2	C		
	③ 子どもを健全に育むスポーツの振興		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生が各種大会等への参加する際の経済的支援</li> <li>・スポーツ団体に対する支援</li> <li>・スポーツに関する講演会等の実施</li> </ul>	③ 白河市スポーツ少年団の団員数	856	H30	780	名	R6	533	674	B	生涯学習スポーツ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度はコロナ禍により、スポーツを楽しむ機会の提供が減少。また、各種大会等の中止や延期により、スポーツ少年団員数が減少していたが、令和3年度は回復傾向にある。</li> <li>コロナの状況をみながら、スポーツ活動ができる機会の提供をすることにより、スポーツの振興を図っていく。</li> </ul>
④ スポーツ教室の参加者(小中学生)(年間)				6,060	H30	5,500	名	R6	180	761	D			
④ 地域への愛着と誇りを育む教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・白河の歴史文化の知識を学ぶ授業の実施</li> <li>・歴史教科書「れきしら」の活用(事業No.35,36)</li> </ul>	④ 児童生徒へのアンケート結果の割合(小学校6年) ①白河の歴史や文化に関することをもっと知りたい、調べたい ②ふるさと白河のすばらしさを感じるようになった	①77% ②89%	H27		%	以上	R6	コロナ禍のためアンケートの実施見送り(R3は実施予定)	①87% ②94%	A	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校において、史跡の見学や歴史に関する出前授業などを実施した。コロナ禍により、一部実施できないものもあったが、今後も実施方法を工夫しながら継続していく。</li> <li>・歴史文化再発見事業や、社会科の学習で「れきしら」の活用を図っている。</li> <li>・今後も、地域への愛着と誇りを育む教育の推進を進めていく。</li> </ul>
			⑤ 児童生徒へのアンケート結果の割合(中学校3年) ①白河の歴史や文化に関することをもっと知りたい、調べたい ②ふるさと白河のすばらしさを感じるようになった	①84% ②88%	H27	%	以上	R6	コロナ禍のためアンケートの実施見送り(R3は実施予定)	①51% ②77%	B			
⑤ 文化・芸術活動の奨励		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミネスと連携した文化活動の実施</li> <li>・文化活動を行う団体等への補助</li> <li>・音楽・芸術等の発表に関する場の提供(事業No.37,38,39,40,41,42)</li> </ul>	⑤ 文化団体に所属している児童・生徒数(累計)	58	H31	358	人	R6	63	58.0	D	文化振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標としている「文化団体に所属している児童・生徒数」について、次期計画においては別に適切な指標を設定したい。</li> <li>コロナ禍によって、文化芸術活動に対して、「不要不急」という言葉が向けられた中で、リアルな文化芸術に触れる機会の重要性を意識して、鑑賞のみならず、創作、参加、活動の機会を確保するよう取り組んだ。</li> <li>コミネスや東文化センターで実施する主催事業を、感染症対策を十分に講じたうえで、できる限り中止することなく開催してきたほか、コロナ交付金等を活用した「ランプコンサート」を開催するなど、コミネスと連携し、様々な催事を開催してきた。</li> <li>また、ふるさと文化振興基金やふるさと納税寄付金を活用し、市民団体の文化活動への補助を行ったり、コミネス交響楽団の活動を支援するなど、文化団体の育成に努めてきた。更に、音楽の祭典や芸能発表会など、定期的な事業も引き続き行っており、発表の場の確保、提供に取り組んでいる。</li> </ul>	

KPIの達成状況等(R3年度分まで)	今後の方向性
<p>(1)ニーズを捉えた婚活支援 コロナ禍において、オンライン開催となったことから、対面でのイベントを想定した目標値には遠く及ばなかった。また、結婚世話焼人等の育成についても、セミナー中止により、前年から現状維持にとどまった。</p> <p>(2)出産・子育てしやすい環境の整備 すでにKPIの目標を達成している項目もあり、順調に推移している。男女共同参画の取組みについては、コロナの影響で実施できなかった。</p> <p>(3)社会を生き抜く力を育む教育の充実 KPIの達成状況は概ね順調に推移している。特に学校図書貸出数の増加や、白河の歴史に親しむ教育が充実していたといえる。一方、全国学力テストは全体として、全国平均を下回る結果となり、コロナ禍で開催の難しかったスポーツ教室や文化・芸術活動については、目標を大きく下回る結果となった。</p>	<p>コロナとの共存による社会活動の再開が進んでいるため、令和3年度に思うように実施できなかった取組みについては、今後の目標達成に向けて積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>出産・子育て施策については、引き続き、取組みを推進していくとともに、コロナ禍の影響による婚姻数や出生数の減少が全国的に深刻なため、さらに取組みを強化していく必要がある。</p> <p>教育については、ICT教育への対応が順調に進んでいるため、子どもたちの学力向上につなげていきたい。</p> <p>スポーツ、文化芸術活動も「ウイズコロナ」のもと、積極的な取組み再開を図っていきたい。</p>



検証委員意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古いものを新しくするのではなく、例えば「古民家カフェ」など、古いものの良さを生かした施設整備により、若者が町歩きに魅力を感じられるような取組みを検討してほしい。</li> <li>・スポーツの振興等はコロナ禍で取組みが難しい状況であったため、今後の取組みに期待したい。</li> <li>・子どもたちが文化団体の活動に積極的に参加できるような環境整備を推進してほしい。</li> </ul>

### Ⅲ.人と地域のつながりをつくる

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度 実績値	⑥ R3年度 実績値	⑦ 達成度	担当課	評価
				KPI	基準値	基準年度	目標値	単位	目標年					
Ⅲ	(1) 地域資源 を活用した 観光の 振興	① 着地型観光の推 進	・白河観光物産協会と連携した、観光情報の 発信強化や観光ルートの開発 ・観光施設への公共Wi-Fiの整備 ・フィルムコミッションによる誘客 (事業No.44,45,46,47)	① 観光入込客数(主要 観光施設)	885,260	H30	950,000	人	R6	635,005	740,128	B	観光課	生活圏や経済圏を同じくする栃木県那須町と「那須に来たら白河へ、白河へ来たら那須へ」を合言葉に、本市の納豆や醤油、味噌、那須町のチーズ、ヨーグルトなどの店舗を巡り、回遊するスタンプラリーを実施した。コロナ禍であったため、参加者は少なかったものの、今後は、アフターコロナを見据えて、新白河駅や那須塩原駅を拠点とした旅行商品の造成化に取り組み、美容や健康に興味がある層へ魅力ある情報発信に努めて誘客に繋げていく。
		② インバウンドの推 進	・アジア圏をターゲットとしたPR活動の実施 ・モニターツアー等の実施 ・観光に関する多言語化した情報発信 (事業No.48)	② 外国人観光客数(年 間)	1,479	H30	4,500	人	R6	441	575	D		新型コロナウイルスの影響により渡航制限のため、ほぼ外国人観光客はなかった。そのため、国内在住外国人による、たるまの絵付け体験や白河ラーメンなどを資源としたモニターツアーを実施し、外国人目線でのブラッシュアップを行った。また、台北駐日経済文化代表処と連携し、台湾の魅力を伝える「台湾フェア」や台湾台南市で福島県の伝統工芸品を出展しPRするなど、インバウンドだけでなく、アウトバウンドにも取り組み、アフターコロナを見据えて誘客の準備を進めている。
		③ 観光プロモーション の実施等による 効果的な情報 発信	・首都圏等大都市に対する観光PRの実施 ・地域イベント情報の積極的な発信 (事業No.49,50,51)	③ 公式インスタグラムの フォロワー数(累計)	230	R1	1,750	人	R6	1,426	2,274	A		新型コロナウイルスの影響により、首都圏でのイベントなどは多くが中止となり、PRする機会は減ってしまったが、本市の桜や紅葉といった四季を通じた風景やイベントの案内、食といった情報発信を行った結果、インスタグラムのフォロワー数が着実に増加した。今後も、徐々にイベント開催に向けた動きがある中で、年間を通して定期的に本市の魅力を発信し、フォロワー数の獲得に繋げていきたい。
	(2) 移住・定 住の促進	① 移住・定住支援 制度の充実	・移住・定住に対する相談体制の整備 ・空き家バンク等による住宅情報の発信 ・移住者に対する経済的支援 ・地域生活情報の発信強化 (事業No.52,53,54,55,56,57)	① 支援制度を利用した 移住・定住者数(累 計)	72	H30	572	人	R6	123	245	D	企画政策課	・都市部で活躍するインフルエンサーを招聘し、首都圏とのアクセスの良さや本市の暮らしやすさなどをYouTubeで発信するとともに、令和3年3月に開設した移住・定住ポータルサイトを活用し、移住検討者に向けた移住支援策を発信した。このため、前年比で支援策を利用した方が増加し、KPIの実績も順調に推移している。  ・今後も移住検討者に向けた、本市の魅力や支援制度等の情報発信を強化していく。
		② 地域資源を生か した滞在型の交 流・体験活動の 推進	・NPO等移住支援組織と連携した、滞在型活 動の開発 ・体験型農業の開発 (事業No.16,54)	② 交流・体験活動の参 加者数(累計)	20	R1	95	人	R6	27	34	D	企画政策課 農政課	(企画政策課) 移住検討者が、本市での暮らしを実際に体験できる「暮らし体験住宅」を運営した。昨年度はインフルエンサーを招聘した際の生活拠点として7か月間利用したが、前年と同様の実績となった。このため、今後は利用者の増加が見込まれる。  (農政課) 新規就農を検討している方を対象に、市内協力農家から話を聞くとともに農作業を体験できる事業を実施し、本市での就農について具体的にイメージできる機会を提供した。
	(3) 戦略的な シティブ プロモ ーションの 展開	① わかりやすい広 報紙の作成や ホームページの 内容の充実	・広報誌の内容の充実 ・市政情報のホームページへの掲載 (事業No.58)	① ホームページの閲覧 数(年間)	2,880,000	R1	2,970,000	件	R6	4,387,247	4,887,498	A	秘書広報課	・限られた紙面のなかで、読みやすい、分かりやすい広報紙の作成に努めてきた。 ・ホームページの閲覧者からのアンケートや職員の意見などをもとに、トップ画面や階層、ページ内容に修正を加えてきた。
		② 市民や観光客な どが情報発信主 体となる仕組み の構築	・シティブロモーションに関する情報の共有化 ・公式SNSを活用した各種情報の定期的発信	② 公式SNSのファン数 (累計)	2,806	R1	2,900	人	R6	3,358	6,319	A	秘書広報課 観光課	(秘書広報課) ・プレスリリースと同時に公式SNSでも各種情報の発信を行ってきた。 ・広い世代で利用されているLINEアプリを活用し、情報発信力の強化を図るため、市公式LINEの導入を進めてきた。  (観光課) 桜や紅葉といった四季を通じた風景やイベントの案内、食といった情報発信を行った結果、インスタグラムのフォロワー数が着実に増加した。今後も、徐々にイベント開催に向けた動きがある中で、年間を通して定期的に本市の魅力を発信し、フォロワー数の獲得に繋げていきたい。
		③ 新聞社やテレビ 局へのプレスリ リースの充実	・各課による事業開催等におけるプレスリリ ースの実施	③ プレスリリース数(年 間)	295	H30	325	件	R6	314	389	A	秘書広報課	・共通の記者発表の様式に随時修正を加え、円滑なプレスリリースに努めた。
	(4) 市民協働 の推進と 外部人材 の積極的 活用	① NPO等民間が行 う地域課題解決 への支援	・市民やNPO等民間が行う課題解決事業への 支援 ・市内の活性化に繋がる事業への支援 (事業No.59,60,61,62,63,64)	① 補助金等による支援 件数(累計)	14	H30	104	件	R6	23	41	D	生活防災課 企画政策課	(企画政策課) ・コロナの影響により、都道府県間の移動制限等があり、当該補助金を利用した活動団体が少なかった。今後も大学ゼミ等の活動を通して白河のファン(関係人口)を増やすとともに、地域課題の解決、学生と地域、特に高校生との交流や、白河の魅力の発掘、情報発信等を支援していく。  (生活防災課) 地域の活力向上や課題解決を図るべく、地域の特性を活かした自発的な取り組みに補助金を交付しているが、コロナの影響により、事業ができなかった団体があった。一方で、市内高校生による活性化に向けた事業を実施することができた。来年度においては、幅広い視点からPRを図るとともに地元高校生による自発的で活性化に繋がる事業に対して更なる支援を行っていく。
② 若者の地域活動 への参画推進		・若者の集う場の提供 ・若者の集う場の活動支援 ・若者が行う活性化事業への支援 (事業No.65)	② コミュニティスペース の学生会員数(累計)	1,261	H30	2,500	人	R6	1,917	2,305	B	企画政策課	・コミュニティスペース(エマノン)は、高校生をはじめとする若者が集える場所としての認知度も上がり、学生会員数は増えている。 ・今後もコミュニティスペースを活用した各種イベント等を開催するとともに、高校生をはじめとする若者の自主的な活動を支援していく。	

No	① 目標	② 具体的な施策	③ 関連事業	④ 重要業績評価指標(KPI)						⑤ R2年度 実績値	⑥ R3年度 実績値	⑦ 達成度	担当課	評価
				KPI	基準値	基準年度	目標値	単位	目標年					
		③ 外部人材の積極的活用	・地域おこし協力隊の募集 ・地域おこし協力隊の活動支援 ・企業人材の活用 (事業No.57)	③ 外部人材の受入件数 (累計)	5	H30	12	人	R6	6	8	C	企画政策課 総務課	(企画政策課) ・市HPや人材募集サイト等での地域おこし協力隊募集活動を継続して行い、新たに1名の地域おこし協力隊が着任することとなった。また、県と共同で設置する地域おこし協力隊の募集も行い、1名が着任した。
		④ 白河のファン(関係人口)の獲得	・公式SNSを活用した各種情報の定期的発信【再掲】 ・ふるさと納税の充実 (事業No.66)	④ 公式SNSのファン数 (累計) 【再掲】	2,806	R1	2,900	人	R6	3,358	6,319	A	企画政策課	・ふるさと納税の募集にあたり、市や返礼品の魅力が伝わるよう、ふるさと納税ポータルサイトを全面的に改修した。さらに、返礼品を取り扱う新規登録事業者を増やすとともに、事業者を訪問し新しい返礼品を開発するなど、返礼品の充実を図り、寄附額・寄附件数ともに前年度を上回った。
(5)	誰もが活躍できる地域社会の実現	① 誰もが利用できる相談体制や居場所の整備	・誰もが相談できる体制の整備 ・誰もが利用できる居場所の整備 ・公民館機能の充実 (事業No.67,68,69,70,71)	① 誰もが利用できる居場所の数	0	H30	1	件	R6	0	0	D	社会福祉課 生活防災課 生涯学習スポーツ課 地域拠点整備室	(地域拠点整備室) 市民会館跡地に、「健康増進」、「子育て支援」、「生きがいつくり」、「交流」、「官民連携」の5つの機能を有する複合施設の整備を進めており、令和3年度は施設の基本設計に着手した。  (社会福祉課) 令和3年7月から、生活困窮、ひきこもり、障がい、子育て、介護の問題など、子どもから高齢者まで複雑化・複合化する様々な問題に対し、ワンストップで相談に応じる「福祉まるごと相談窓口」を市役所1階の窓口開設し、行政の制度や分野ごとの縦割りではなく、各部署が包括的に連携し、相談者に寄り添う支援を行っている。 また、官民が協力・連携し、市福祉事務所の窓口をはじめ、社会福祉協議会、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、ひきこもり相談支援センター等の相談窓口において、当事者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言、権利擁護のために必要な援助等を行った。
		② 健康づくりの意識の向上と健康寿命の延伸	・禁煙・減塩等健康に関するプロジェクトの推進 ・健康づくりへの意識向上に対する支援 ・民間企業と連携した、健康づくり事業の実施 (事業No.72,73,74,75,76,77)	② 生活習慣病予防健診の受診率	43.8	H30	60.0	%	R6	31.7	45	B	健康増進課	令和3年度の生活習慣病予防健診は、実施時期や期間を元にもどし、密を避けるため人数制限(完全予約制)などの新型コロナウイルス感染拡大予防を継続し、withコロナの健診体制を確立している。受診率は、44.5%で、コロナ前(45.5%)にほぼ戻しつつあり、目標値の7割以上を達成した。 禁煙応援プロジェクトでは健診結果説明会等や3歳児健診の保護者を対象に肺年齢検査や禁煙外来の情報提供を実施した。へる塩プロジェクトでは健診結果で塩分摂取量の多い方を対象に、民間企業(カゴメ株式会社)と連携した野菜で健康応援プロジェクト事業を開催した。スリムアッププロジェクトでは、白河市健康ポイント事業でのポイント付与等PRし、それぞれの事業について感染対策に十分留意して健康づくりを支援した。健康ポイント事業は3年度新規事業であり、タニタヘルスリンクと協定を結び健康づくりを支援した。

KPIの達成状況等(R3年度分まで)	今後の方向性
<p>(1) 地域資源を活用した観光の振興 那須町との連携事業やSNS等での情報発信により、KPIの達成状況は順調に推移している。一方、コロナ禍の影響で、インバウンドは目標を大きく下回った。</p> <p>(2) 移住・定住の推進 移住・定住の支援策の充実や積極的な情報発信により、KPIは順調に推移している。一方、交流・体験活動はコロナの影響もあり、低調な結果となった。</p> <p>(3) 戦略的なシティプロモーションの展開 市民に親しみを持ってもらえるような広報紙の作成や市の公式LINEの開設等の結果、KPIを達成することができた。</p> <p>(4) 市民協働の推進と外部人材の積極的活用 地域おこし協力隊員が前年から2名増となり、目標達成に向け、順調に推移している。また、ふるさと納税のPR強化により、白河市の注目度が高まったといえる。</p> <p>(5) 誰もが活躍できる地域社会の実現 市民会館跡地への複合施設整備に向け、基本設計に着手したが、物価高騰の影響もあり、整備スケジュールは後ろ倒しになる見込み。また、福祉に関するワンストップ相談所を設け、相談体制の充実を図った。施設の完成という基準では、目標達成に至っていない。</p>	<p>観光については、訪日個人旅行が解禁され、一日の入国者上限数も撤廃されたため、この機会を逃さず、インバウンド増に向けた取り組みを推進していきたい。</p> <p>移住定住については、引き続き、取り組みを推進していくとともに、交流・体験活動を活発化させていく必要がある。</p> <p>シティプロモーションについては、KPIの達成を維持しつつ、情報発信の内容の充実を図っていく。</p> <p>外部人材の積極活用については、引き続き、地域おこし協力隊との連携に努めるとともに、民間企業の人材登用についても検討していく。</p> <p>複合施設の整備については、計画に従い着実に実施していくとともに、誰もが気軽に相談できる体制の充実を図っていきたい。</p>



検証委員意見
<p>・自治会を中心に防災訓練を実施するなど、地域がまとまりを持って身近なことに取り組んでいくことが人と人とのつながりを作っていくのではないかと。</p> <p>・高校野球をきっかけに白河の関が人気を集めているが、この契機を逃さず、市や関係団体が連携してPRを強化していくべき。</p> <p>・南湖公園及びその周辺は、お洒落なカフェがオープンするなど整備が進んでいるため、市内の他の施設にも波及していったほしい。また、新たにバイパスが開通することもあり、南湖周辺の耕作放棄地等の有効な活用についても検討が必要。</p> <p>・那須町や西郷村のTOKIOBAと連携した観光PRを今後も推進してほしい。</p>